

2 研究の実際

研究の実際

オ 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級(1年)の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する中学校1年生の生徒に対して、特別支援学級担任が、学習面や生活面など学校の教育活動全体を通して合理的配慮を提供した事例である。

対象生徒は、5月までは週に1～2日の欠席で登校できていたが、5月下旬から遅刻や欠席が増え、6月からは週1日の登校になり交流学級での授業参加は難しくなった。そのためほとんどの学習を特別支援学級で取り組むようになった。対象生徒は自閉スペクトラム症の診断があり、疲れやすい、騒がしいところが苦手、休み時間などの過ごし方が分からない、急な変更があるとその場から動けなくなる、人の顔と名前が覚えられないなどの様子が見られる。

そこで、対象生徒が落ち着いて学校生活が送れるように、教室環境の整備や休み時間の過ごし方、学習活動等について配慮した。

P(決定)シート

意思の表明

本人	・中学校に早く慣れて、落ち着いた学校生活を送りたい。
保護者	・中学校では、得意なことを伸ばし、苦手なことを少しでもできるようになってほしい。 ・学校に居場所があり、安心して通えるような支援をしてほしい。
引継ぎ等	・小学校では、何をしてもよいのか分からなくなるとその場から動けなくなるため、見通しをもって生活ができるように、事前に予定を伝えるようにしていた。また、自分で選択することが苦手なため、方法を示し、担任と一緒に解決方法を考えていた。

調 整

実態把握

学習面	・当該学年の学習内容がおおむね理解できる。 ・文字を丁寧に書くことが苦手で、特に漢字の練習が苦手である。英語にも苦手意識があり、アルファベットの読み書きをよく理解できていない。
生活面	・入学当初は交流学級の授業へ参加できていたが、5月下旬からは、登校が不安定になり、遅刻したり欠席したりすることが増えた。 ・騒がしい環境の中にいることが苦手だが、自分から休むことができない。 ・学校でホッとする時間が取れず、それが疲れにつながっていることがある。
人との関わり	・自分の行動に対して、周りから何か言われるのではないかと人の目を気にしている様子がうかがえる。 ・特別支援学級での小集団の中では、友達と休み時間を過ごすことができる。 ・事前に行事への参加の仕方を伝えておくと、集団活動に参加できる。
その他 (成育歴・検査等)	・自閉スペクトラム症の診断を受けている。 ・WISC-IVでは、平均の上にある。

検 討

【時 期】 6月上旬 学年部会の後

【参加者】 特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 対象生徒は、中学校進学に伴い、学校生活の変化に対応できないことがあり、だんだんと遅刻や欠席が増えた。特に、見通しがもてなくなると、活動に取り組みなくなることがある。また、集団活動の場が苦手だったり、周りの目を気にしたりするため、人が多くいる場面を回避し、気持ちの切り替えなどのスキルを学ぶ必要があると考え、以下のような支援を検討した。

- ①対象生徒用の活動内容を示したスケジュールを作る。
- ②対象生徒が安心して過ごせる活動の場所を設定したり、教材・教具を工夫したりする。
- ③行事の前は、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しをもたせる。
- ④交流学級の担任や関係機関との連携を図る。
- ⑤校内の職員に対象生徒の現状について伝えて共通理解をし、周りの生徒への啓発を依頼する。
- ⑥不安が高まったときに、落ち着ける場所を用意する。
- ⑦遅刻してきたときは裏門から入ることを許可し、職員が出迎えるようにする。
- ⑧特別支援学級教室の近くに靴箱を設置する。

合意形成

【時 期】 6月下旬 個人面談

【参加者】 保護者、特別支援学級担任

【内 容】 上記の合理的配慮の内容を提供し、次回は夏休みに見直しをする。
また、保護者や本人とは、家での状況などについて密に連絡を取るように決めた。

決 定

長期目標

- ・中学校の生活に慣れ、落ち着いた学校生活を送る。

①教育内容・教育方法

- ・対象生徒の一日の活動内容を示したスケジュールを掲示する。
- ・対象生徒が安心して過ごせる活動の場所を設定したり、教材・教具を工夫したりする。
- ・登校時間についての連絡を、保護者や対象生徒と取り合う。

②支援体制

- ・関係機関との連携を図る。
- ・交流学級の担任との連携を図る。
- ・校内の職員に本人の現状について伝えて共通理解をし、周りの生徒への啓発を依頼する。

③施設・設備

- ・不安が高まったときに、落ち着ける場所を設ける。
- ・特別支援学級の近くに靴箱を設置する。

<ul style="list-style-type: none"> ・行事の事前指導では、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しをもたせる。 ・遅刻してきた時は裏門から入ることを許可し、職員が出迎えるようにする。 		
---	--	--

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

*** <合理的配慮：3観点11項目> * 該当する項目に○を付けて下さい。**

①-1 教育内容

- () 学習上又は生活上の困難を改善・克服
- () 学習内容の変更・調整

①-2 教育方法

- () 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- () 学習機会や体験の確保
- () 心理面・健康面の配慮

② 支援体制

- () 専門性のある指導体制の整備
- () 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発
- () 災害時等の支援体制の整備

③ 施設・設備

- () 校内環境のバリアフリー化
- () 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備
- () 災害時等への対応に必要な施設・設備

次回の検討予定日（8月下旬）

D(提供)-1シート

長期目標

- ・中学校の生活に慣れ、落ち着いた学校生活を送る。

決定した合理的配慮

- ・対象生徒の活動内容を示したスケジュールを作る。
- ・対象生徒が安心して過ごせる活動の場所を設定したり、教材・教具を工夫したりする。
- ・行事の前には、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しをもたせる。
- ・交流学級の担任や療育機関との連携を図る。
- ・校内の職員に対象生徒の現状を伝え、共通理解をし、周りの生徒への啓発を依頼する。
- ・不安が高まったときに、落ち着ける場所を用意する。
- ・遅刻してきたときは裏門から入ることを許可し、職員が出迎えるようにする。
- ・特別支援学級教室の近くに靴箱を設置する。

実際の指導場面における合理的配慮の提供について

①教育内容・方法

場面	対象生徒の目標	手立て
学習面	・30分間集中して授業に取り組む。	・基本的な内容のプリント等を用意する。 ・苦手な英語は教科担当と連携し、1対1対応で視覚的に示した教材を使いながら、達成感を感じられるようにする。
生活面 (登校)	・週1日を目標に登校する。	・一日の活動内容を示したスケジュールを用意し、遅刻や欠席をするときは家庭と連絡を取り合う。 ・スケジュールを用いて、登校する日を対象生徒と話し合う。
(休み時間)	・疲れ過ぎないような適切な休み時間、昼休みの過ごし方を知る。	・自分から休むことができないので、時間を示すなど担任が言葉を掛ける。
行事等 (体育大会)	・練習や本番への参加の仕方を担任と考える。	・昨年度の動画やプログラムを見せて、活動の見通しをもたせる。 ・本番当日、参加が難しい場合は見学してよいことを伝える。

②支援体制

項目	時期	内容
職員会議	4月下旬	・前年度3月に行った移行支援会議で得た対象生徒の情報を、校内の職員全体で共通理解する。
学年部会	4月	・交流学級担任、副担任、教科担任と共通理解を図る。
職員研修	7月初旬	・個別の教育支援計画等を基に、対象生徒への支援の仕方や役割を学年で共通理解した後、校内全体で共通理解する。

③施設・設備

項目	時期	内容
落ち着ける場所の確保	7月初旬	・対象生徒が不安になったときに落ち着くまで過ごすことができる部屋を設ける。

D(提供)-2シート

合理的配慮の実際

1 合理的配慮の提供場面

自立活動「一日を通した学校生活」(心理的な安定、環境の把握)

2 目標

○中学校の生活に慣れ、落ち着いた学校生活を送る。

3 合理的配慮を取り入れた取組について

本学級(自閉症・情緒障害特別支援学級)には中学校1年生7名が在籍している。生徒それぞれの実態に応じて、交流学級の授業にほとんど参加する、教科によって交流学級の授業や特別支援学級の授業に参加する等の教育課程を設定している。対人面では、人懐こい生徒が多いが、友達のことが気になり、昼休みなど、仲間に関わりを求めようとし過ぎる生徒もいる。

対象生徒は、自閉スペクトラム症の診断がある。疲れやすい、騒がしいところが苦手、休み時間などの過ごし方が分からない、話したいことがあっても上手く話せない、急な変更があるとその場から動けなくなる、人の顔と名前が覚えられないなどの様子が見られる。

入学当初は、交流学級の授業や全校集会などにも参加できていた。しかし、週1~2日ほどだった欠席日数が、1学期後半には遅刻したり欠席したりすることが増え、交流学級への授業参加が難しくなった。生徒の登校へのつまずきの大きな要因としては、中学校への入学をきっかけとした環境の変化にあると思われた。

そこで、登校して見通しをもって学校生活を送り、中学校の生活に慣れることを目標として、学校生活全体を通した自立活動に取り組んだ。生徒の一日のスケジュールを整えたり、対象生徒が好きな物づくりや調理に関する活動を、一日の早い時間帯や午後の始めの時間帯に設定したり、休憩時間や昼休みに得意な紙工作をできる場や別室にクールダウンする場を設けたりして、対象生徒が意欲的に活動できる環境づくりをした。

4 対象生徒へ提供する主な合理的配慮

提供する合理的配慮






- ・対象生徒の学習活動のスケジュールや手順書を用意し、ルール等を掲示する。
- ・対象生徒が安心して過ごせる活動の場所を設定したり、教材・教具を工夫したりする。
- ・登校する時のルールを決めておく。
- ・校内の職員に対象生徒の現状を伝え、共通理解をし、周りの生徒への啓発を依頼する。
- ・遅刻してきた時は裏門から入ることを許可し、職員が出迎えるようにする。
- ・不安が高まった時に落ち着ける場所を用意する。
- ・特別支援学級教室の近くに靴箱を設置する。


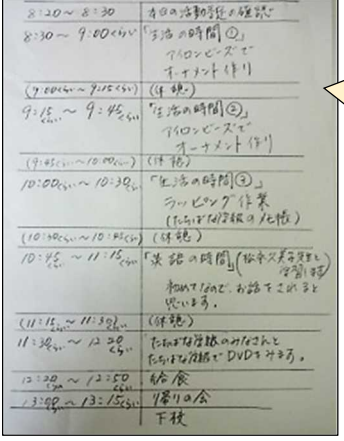
5 取組の実際

(◎合理的配慮)


担任

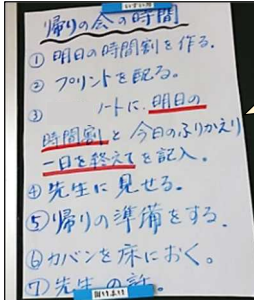
対象生徒

時間	生徒の活動	教師の働き掛け	取組の様子
<p>～8:00</p>	<p>・登校する。</p>	<p>◎登校したら交流学級の教室でなく、特別支援学級の教室で過ごすようにした。</p> 	<p>大勢の人と会わないように、靴箱を教室近くに設置しました。</p>
	<p>・荷物を片付ける。</p>	<p>◎「登校後の約束」を書いたシートを黒板に掲示した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center; color: green; font-weight: bold;">登校後の約束</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まずはカバンから荷物を出し、それぞれ決まったところに片付ける。 2. 「連絡ノート」「連絡」「漢字ファイル」「提出するプリント」「校納金・給食費」などは先生の机の決まった場所に出す。 3. 机に書き、時間が来るまで、読書またはペーパークラフトをする。 </div>	<p>先生から指示を受けなくても活動できるようになったよ。</p>
			<p>ファーストバックやセカンドバックの置き場所を決めました。</p>
			<p>何をどこに提出するのか分かるように記してあるから、出せるようになったよ。</p>
		 	<p>カバンを置いた後に鏡を見て、身だしなみのチェックをできるようにしました。</p> <p>教科書やファイル、体育館シューズなどを置く場所も決めてあるから整理しやすくなったよ。</p>

<p>8:00 ～8:30</p>	<p>読書・朝の会 ・時間割を確認する。</p>  <p>クラス全員の交流学級の時間割です。朝の会では全体の時間割も確認するようにしました。</p>	<p>◎個人用のホワイトボードを使って、本日の詳しい予定を確認させた。</p> <p>◎学習時間の約束を提示しておき、毎日確認させた。</p>	 <p>学習の約束 ①話は最後まで静かに聞く。 ②背筋を伸ばして座る。 ③発言するときは手を挙げる</p>	<p>自分だけの一日のスケジュールを確認することで、見通しをもって活動できるようになったよ。</p> <p>視覚的に注意を促し、生徒自身が意識できるようにしました。</p>
<p>8:30 ～9:00</p>	<p>美術 ・オーナメント作りに取り組む。</p>	<p>◎「使う道具カード」を確認させた。</p> <p>◎「オーナメント作りの目標」(知的特別支援学級の作業製品が売れるように、丁寧に作業をしよう)を確認させた。</p> <p>◎「作り方説明書」を確認させた。</p> <p>◎オーナメントの例を見せ自由に設計させた。</p>	<p>オーナメント作りの道具</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作りたいモチーフのイメージ図 2. アイロンピース 3. ベグボード その下に引くフェルト 4. アイロン 5. アイロンシート 6. ピンセット 7. できあがった物を入れる箱 <p>オーナメント作りの目標 〇〇〇学級の製品が たくさん売れるように、ていねいに、時間一杯作業をしよう!</p> <p>作り方説明書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図案を参考にしながら、ベグボードにアイロンピースを並べていく。 2. 1が終わったら、アイロンのスイッチをオン。温度は「中温」に設定する。 3. アイロンシートを被せ、アイロンをかける。アイロンの自然な重さで、力を入れ過ぎない。 4. 反らないように本で重しをしながら、冷めるのを待つ。冷めたらアイロンシートをはずす。 	<p>使う道具はすべて1カ所にまとめてあるから、自分で準備できたよ。</p> <p>何のために作るのかが分かり、モチベーションが保たれるようにしました。</p> <p>担任からたくさんさんの指示を出さずに生徒が活動できるようにしました。</p>
<p>9:00 ～9:15</p>	<p>休憩</p>	<p>◎「休憩中することカード」を確認させた。</p>	<p>休憩中すること</p> <ol style="list-style-type: none"> ①トイレに行く。 ②水分補給をする。 ③好きな活動をする。 ペーパークラフト などなどを考える チャレンジルーム 	<p>生徒が見えるところに掲示し、休憩の時間を有意義に過ごせるようにしました。</p>

<p>9:15 ～9:45</p>	<p>家庭 ・オーナメント作りに取り組む。</p>	<p>◎「アイロンの取り扱い方」を見ながら安全面に注意させた。</p> <div data-bbox="627 264 1007 517" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #90EE90; margin: 0;">アイロンの取り扱い方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 準備の時に、コンセントにつないでおく。 2. アイロンピースを並び終えてから、アイロンのスイッチを入れる。 3. 今回は、温度は「中温」に設定する。 4. アイロンをかけ終わったら、スイッチを切る。 </div> <p>◎終わる時間を示しておいた。 ◎「アイロンの取り扱い方」を再度確認させた。 ◎道具の片付け方や道具を片付ける場所を決めておいた。 ◎できあがった形と数をチェックシートに記入させた。</p>	<div data-bbox="1177 293 1445 517" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>使い方が分かるから、ヤケドをしないように注意しながら、作業することができるようになったよ。</p> </div>
<p>9:45～ 10:00</p>	<p>休憩</p>	<p>◎「休憩中することカード」を確認させた。</p>	
<p>10:00～ 10:30</p>	<p>国語 ・漢字プリントを1枚する。 ・答え合せをする。 ・間違った漢字を練習する。</p>	<p>◎それぞれの課題が終わったら、担任に報告するルールを決めておいた。 ◎解答を用意し「答え合せの手順」を示した。</p> <div data-bbox="837 1003 1139 1205" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #90EE90; margin: 0;">答え合わせの手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 解答を見て、赤ペンでO×をつける。 ② 間違ったところは、正しい答えを書く。 ③ 間違ったところは、問題文をもう一度読んで見直しをする。 </div>	<div data-bbox="1177 987 1445 1111" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>やり方を何度も先生に確かめなくてよくなったよ。</p> </div>
<p>10:30～ 10:45</p>	<p>休憩</p>	<p>◎「休憩中することカード」を確認させた。</p>	
<p>10:45～ 11:15</p>	<p>英語（教科担当と） ・アルファベットを復習する。 ・単語の発音を練習する。 ・挨拶や簡単な会話を練習する。</p>	<p>◎電子黒板やカードを利用して視覚的な教材を準備した。</p>	
<p>11:15～ 11:30</p>	<p>休憩</p>	<p>◎「休憩中することカード」を確認させた。</p>	
<p>11:30～ 12:00</p>	<p>社会 ・復習する。 ・答え合せをする。 ・問題の答えを3問覚える。</p>	<p>・ドリルを用いて習っていないことの復習をすることを意識させた。 ◎解答を用意した。「答え合せの手順」を示した。 ◎覚えやすい問題を3問選び、答えを覚えたことを称賛した。</p>	

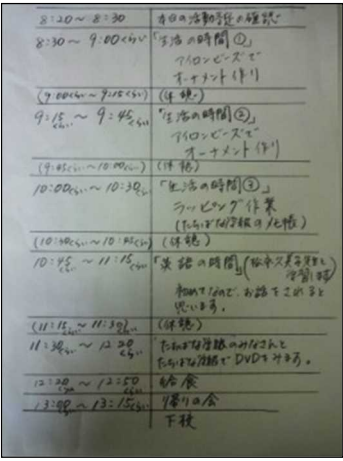
12:00～ 12:20	休憩	◎「休憩中することカード」を確認させた。	
12:20～	給食 (特別支援学級の生徒と) ・手を洗う。 ・交流学級に自分の給食を取りに行く。 ・食べる。 ・食器を配膳室に片付けに行く。	◎事前に給食メニューにマークさせておいた。(食べられないもの×、少し食べる△、普通○) ◎給食のスケジュールを見て活動させた。 ◎給食時間のルールを確認させた。	
12:50～	昼休み (特別支援学級の生徒＋対象生徒) ・歯を磨く。 ・別室で過ごす。 ・特別支援学級の教室に戻る。	◎「休憩中することカード」を確認させた。 ◎別室で過ごす時間帯を自分で決め報告させた。  ◎残り10分の時点で、タイマーが鳴るようにセットした。	別室で、クールダウンをすることで、午後からの活動に落ち着いて取り組むことができると考えました。
13:30～ 14:00	自立活動 ・ラッピング作業に取り組む。	◎必要な道具などを「ラッピングのための道具シート」を見ながら、一緒に用意した。また、そろっているか、自分で確認させた。 ◎「ラッピング作業の目標 (知的特別支援学級の作業製品が売れるように、丁寧に作業をしよう)」を確認させた。 ◎「ラッピングの手順」を確認させた。 <div data-bbox="879 1093 1145 1357" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ラッピングのための道具 1. メモ帳 2. 袋 3. 簡易のし紙 4. 両面テープ 5. ホチキス 6. かご 7. 卓上ごみ箱</div> <div data-bbox="603 1541 1098 1865" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ラッピングの手順 1. 簡易のし紙の裏面の一番下に、両面テープを10枚分貼り付ける。 2. 普通のタイフとマグネット付きを1セットにし、10セット作る。 3. 2を袋に入れる。 4. 簡易のし紙を3セットし、ホチキスでとめる。 5. 両面テープの剥離紙をはがして袋に貼る。</div> ◎できあがった製品などを入れる箱を用意した。 ◎見本を提示し、担任も共に作業をした。	途中で手順が分からなくなっても、確認できるから安心！

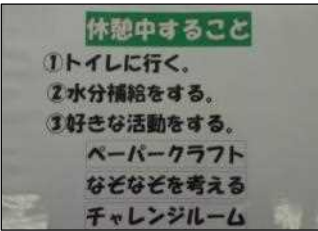

14:00～ 14:15	休憩	◎「休憩中することカード」を確認させた。	
14:15～ 14:45	理科 ・プレテストを する。 ・答え合せをす る。 ・問題の答えを 3問覚える。	◎プレテストの受験の仕方を提示した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p style="text-align: center; color: green; font-weight: bold;">テストの受け方</p><ol style="list-style-type: none">1. 必要な筆記用具だけ机に出す。2. 問題用紙・解答用紙が配られても触らない。3. 時間がきたら、問題用紙・解答用紙に名前を書き、問題を確認する。4. 質問や物を落とし時は静かに手を挙げる。5. 私語はせず、早く終わっても見直しをし、時間いっぱい取り組む。6. 終わったら、消しゴムのカスを集めて捨てる。</div> ◎解答を用意する。「答え合せの手順」を示しておいた。 ◎覚えやすい問題を選び、答えを覚えたことを称賛した。	
14:45～	掃除（特別支援学級の生徒など）	◎仕事の確認をさせた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p style="text-align: center; color: green; font-weight: bold;">掃除の手順</p><ol style="list-style-type: none">①ほうきで掃く。②ごみを集める。③机を拭く。④ぞうきんを水で洗う。</div>	
15:10	帰りの会 ・帰りの放送を聞き、帰る準備に取り掛かる。 ・連絡ノートに記入する。 ・通学バックに荷物を入れる。 ・担任の話を聞く。 ・帰りの挨拶をする。	◎帰りの活動の流れを示しておいた。 ◎放送を聞くルールを掲示し、手を止めて、黙想をしながら放送を聞かせた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"></div> ◎連絡ノートの書き方の例示を黒板に貼って、明日の予定を記入し、本日の振返りを書かせた。 ◎明日の活動予定に書いたことを報告させ、できたら合格マークを付けた。 ・担任の話は簡潔にした。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; color: black; font-size: small;">これを見たら、先生の指示を受けなくても、流れが分かって活動できたよ。</div>

※ 対象生徒の登校が遅れた場合は、登校した時間帯に計画している活動から取り組んだ。


D(提供) - 3シート

合理的配慮における具体例

場面	生活面	対象生徒独自の一日の過ごし方 (スケジュール)
合理的配慮の内容 ・対象生徒用のスケジュールを用意する。 ・教科担当との連携を図る。		
		<p>入学前の移行支援会議において、関係機関から対象生徒の特性として「予定がはっきり分かっていた方が有効」という話があった。また、母親から「細かい予定があった方がよい」「(対象生徒) 独自の一日の流れにしてもらえたら」という申し出もあったため、対象生徒用のスケジュールを用意した。</p> <p>30分活動して休憩するというパターンや、対象生徒が得意とする物づくりなどの活動を登校後早めの活動に入れたため、急なストレスを感じることなく一日がスタートできるようになった。</p> <p>また、英語は教科担当と連携して個別の学習に取り組んだ。英語担当教員と1対1で、視覚的に示した教材を用いながらの授業であったため、落ち着いて学習することができた。</p>
	<p>【対象生徒の一日の活動内容】</p>	

場面	生活面	休み時間・昼休みの過ごし方
合理的配慮の内容 ・休憩中の過ごし方について、掲示物を用意し、本人と一緒に確認する。 ・別室を用意し、過ごしやすい環境を整える。		
		<p>対象生徒は、スケジュールがあると決められた活動に取り組むことができるが、活動内容が明確ではない昼休みや休み時間に戸惑いを感じている様子が見られた。</p> <p>そこで、休憩中にすることについて視覚的に提示したり、休憩するときの過ごし方について担任と一緒に考えたりした。また、疲れがたまっていると感じたり、気持ちが落ち着かないでいたりするときに使用できる部屋も用意した。</p> <p>その結果、休み時間や昼休みに安心して過ごしている様子が見られるようになった。また、別室で休んだ後の活動は、落ち着いて取り組むことができるようになってきた。</p>
	<p>【休憩中することシート】</p>  <p>【休憩できる部屋】</p>	

場 面	生活面	登校の仕方
<p>合理的配慮の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・靴箱を特別支援学級の教室近くに設置する。 ・遅れてきたときは、裏門から入ることを許可し、職員が出迎える。 		
 <p data-bbox="196 779 627 862">【特別支援学級の教室に入りやすい場所に設けられた靴箱】</p>		<p>対象生徒は、大勢の人がいるところが苦手で、登校するときに多くの生徒と会うことに不安を感じて、登校をしづっている様子が見られた。</p> <p>そこで、靴箱を特別支援学級の教室に近く、あまり人に会わない場所に設置した。また、遅れて登校するときには、裏門から入ることを許可し、職員が出迎えるようにした。</p> <p>その結果、登校する日数がだんだん増えてきた。まだ人目を気にすることもあるが、職員と一緒にいれば、安心して学校生活を送ることができるようになってきた。</p>

場 面	行事等	体育大会への参加の仕方
<p>合理的配慮の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の写真や今年度のプログラムを見せ、活動の見通しをもたせる。 ・練習や本番当日も、参加が難しい場合は見学してよいことを伝える。 		
 <p data-bbox="188 1686 587 1720">【校舎から見た体育大会の様子】</p>		<p>初めての中学校の体育大会だったため、練習中の過ごし方や本番での参加の仕方に見通しがもてずに不安な気持ちでいる様子が見られた。</p> <p>そこで、体育大会当日について見通しをもつことができるように、昨年の体育大会の写真やプログラムを見せたり、出場種目を確認したりした。また、練習への参加については、予定が変更すると動けなくなってしまうため、参加が難しいときは見学してもよいことにした。</p> <p>体育大会当日は、担任と参加の仕方を考え、校舎から見学することにした。体育大会の様子を見ながら、「来年は参加できそう」と言っていた。</p>

C(見直し)シート

見直し

検 討

【時 期】12月上旬

【参加者】特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 決定した合理的配慮の成果と課題について、対象生徒の活動場面の様子を振り返りながら話し合った。

成果と課題

○一日の活動内容を示したスケジュールを用意したことで、対象生徒は見通しをもって、学校生活を過ごすことができた。また、登校する際のルールを決めたり、昼休みにはクールダウンをする時間を取ったりしたことで、対象生徒は落ち着いた様子で過ごすことができるようになった。

●家庭訪問の際に、保護者から「本人は勉強をしたいと言っている」という話があったため、学習内容を検討する必要がある。

●全ての教科を特別支援学級で学習しているため、教科担当との連携が難しいときがあった。

合理的配慮の変更点

これまでの合理的配慮は今後も継続する。以下の2点については、見直しをした。

- ・一日の活動内容の中に、教科学習の時間を増やす。
- ・教科担当と連携を図り、学習内容や方法を工夫する。

合意形成

【時 期】12月下旬

【参加者】保護者、特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 検討した成果と課題や、変更した合理的配慮について提案した。

今後も定期的に、評価、見直しを行い、年度末には次年度への引継ぎについて話し合う予定である。

A(引継ぎ)シート

引継ぎ

【時 期】 4月 職員会議後

【参加者】 (新・旧)特別支援学級担任、(新・旧)交流学級担任

【方 法】 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、下記の引継ぎ内容について話し合いをし、全職員にも共通理解を図る。4月の中旬頃に保護者を交えての支援会議を開く。

【内 容】 定期的に見直してきた以下の合理的配慮を引継ぎ内容とした。

- ・対象生徒の活動内容を示したスケジュールを作る。
- ・対象生徒が安心して過ごせる活動の場所を設定したり、教材・教具を工夫したりする。
- ・行事の前には、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しをもたせる。
- ・交流学級の担任や療育機関との連携を図る。
- ・校内の職員に対象生徒の現状を伝え、共通理解をし、周りの生徒への啓発を依頼する。
- ・不安が高まったときに、落ち着ける場所を用意する。
- ・遅刻してきたときは裏門から入ることを許可し、職員が出迎えるようにする。
- ・特別支援学級の教室の近くに靴箱を用意する。
- ・一日の活動内容の中に、教科学習の時間を増やす。
- ・教科担当と連携を図り、学習内容や方法を工夫する。

成果と課題

成 果

○合理的配慮のプロセスを基にした支援内容の決定

対象生徒への合理的配慮の提供については、「意思の表明」「調整(実態把握、検討、合意形成)」「決定」の流れを意識して取り組んだ。

決定の際は、保護者や本人の願い、前年度からの引継ぎ内容を基に、様々な場面での対象生徒の実態を踏まえた具体的な支援内容について検討することができた。その結果、対象生徒や保護者との円滑な合意形成にもつながった。

○知的特別支援学級担任と連携した合理的配慮の提供

校内支援委員会などで情報を共有してきた知的障害特別支援学級担任と連携し、知的障害特別支援学級で取り組んでいる作業学習を、対象生徒の活動の1つとして設定した。対象生徒が好きな活動内容だったため、最後まで取り組むことができた。知的障害特別支援学級の生徒から感謝の気持ちとして手作りクッキーをプレゼントしてもらったことで、他の生徒との関わりに喜びを感じたようであった。

○学校生活全体を通じた合理的配慮の提供

登校する日数が減ってきた対象生徒に対して、中学校の生活に慣れ、落ち着いた学校生活を送ることができるように、一日の活動内容を示したスケジュールを作成した。また、活動時間は集中して取り組むことができるように30分間にした。さらに、活動後に15分間の休憩を設けて、対象生徒が疲れ過ぎないように配慮した。

対象生徒は、一日の活動内容を示したスケジュールがあるため次にやることが明確になり、担任の指示がなくても自分で活動できるようになった。

○対象生徒が落ち着くことができる支援体制と施設・設備の整備

対象生徒は大勢の人がいるところが苦手なため、特別支援学級の教室に近い場所に靴箱を設置した。また、登校する時に裏門から入ることを許可し、職員が出迎えるようにしたことで、安心して登校できるようになってきた。

疲れがたまっていると感じたり、気持ちが落ち着かないでいたりするときに使用できる部屋を設置した。その結果、対象生徒は休み時間や昼休みに安心して過ごすことができるようになった。部屋を利用した後の活動は、落ち着いて取り組むことができるようになってきた。

課 題

- 対象生徒は、学校生活全体を通じた合理的配慮の提供が必要だった。そのため、学習面や生活面において、担任だけでは十分な支援を提供することが難しいときもあった。そこで、全職員で共通理解を図り、支援体制を整える必要がある。

平成28年度 個別の教育支援計画

記入者名：○○ ○○ 記入日：平成 28 年 6 月 ○日

○○中学校 ○○学級 (1年 ○組)		校長名	○○ ○○	担任名	○○ ○○
しめい 氏名 ○○ ○○ (男・女)		生年月日：平成 ○年 ○月 ○日			
保護者名 ○○ ○○		家族構成	○ ○ ○ ○		
住所：〒 ○○市 ○○町 ○○○番地		TEL. ○○○○-○○-○○○○			
緊急連絡先					
現在の生活、将来の生活についての願い					
本人の 願い	・中学校の生活に早く慣れて、落ち着いた学校生活を送りたい。		保護者 の願い	・得意なことを伸ばしてほしい。 ・将来は、自立した社会人になってほしい。	
本人の状況（学習面、集団参加・社会性、対人関係・コミュニケーション 他）					
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初は交流学級の授業へ参加できていたが、最近では、登校時間が遅かったり欠席したりすることが増え、交流学級での学習はできていない。 ・当該学年の内容は理解できる。授業を受けてなくても、得意な教科は、テストである程度の点数を取ることができる。 ・文字を丁寧に書くことが苦手である。 ・交流学級での授業に参加できていた頃は、給食当番の仕事もし、集会などにも参加できていた。 ・ざわざわして、うるさい環境の中が苦手である。 ・特別支援学級での小集団の中では、友達との会話を楽しむことができる。一方で、学校でホッとすることが取れず、それが疲れにつながることもある。人の目を気にし、自分がしている行動に対して、何か言われるのではないかと思っているところもある。 				
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・調理活動が好きなので、食べたい物を自分で作ることができる。後片付けは苦手である。 ・自分が想定していないことがあると、不安定になったりパニックになったりする。 ・休日明けは欠席が多い。 ・母親が主に療育に携わっている。 				
地域・関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・療育機関(月1回 療育) 病院(投薬) ・子供会に参加 料理教室 				
支援の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の見通しをもたせ、安心して過ごせるようにする。 ・本人が困ったとき、自分で対応できるようにする。 				
主な支援内容					支援者
学 校	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>1週間の予定や行事の内容を早めに伝える。視覚的にも分かるようにする。</u> ・困った時の解決方法を一緒に考える。 			支援学級担任
	校内	<ul style="list-style-type: none"> ・困った様子などが見られた時には、様子を見て言葉を掛けてもらえるよう、<u>職員に共通理解を図る。</u> 			支援学級担任
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって生活できるようにする。 ・困った時の対処の仕方を書いて、事前に知らせておく。 			家族	
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事参加については、家族で事前に内容等を調べて参加できるかどうかを考える。参加できそうであれば、内容などを書いて本人に伝える。 			家族	
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・療育機関：ソーシャルスキルを身に付けるために、療育や訓練を受ける。 ・病院：定期的な面談、投薬。 				
医療、福祉、各特別支援学校など					
評価 及び 引継ぎ事項					

【合理的配慮シート】

〇〇中学校 1年 〇組 氏名 〇〇 〇〇

長期目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の生活に慣れ、落ち着いた学校生活を送る。

提供する合理的配慮	評価
・ 対象生徒の活動内容を示したスケジュールを作る。	継続
・ 対象生徒が安心して過ごせる活動の場所を設定したり、教材・教具を工夫したりする。	継続
・ 行事の前には、前回の様子を写真や動画で知らせ、見通しをもたせる。	継続
・ 交流学級の担任や療育機関との連携を図る。	継続
・ 校内の職員に対象生徒の現状を伝え、共通理解をし、周りの生徒への啓発を依頼する。	継続
・ 不安が高まったときに、落ち着ける場所を用意する。	継続
・ 遅刻してきたときは裏門から入ることを許可し、職員が出迎えるようにする。	継続
・ 支援学級の近くに靴箱を設置する。	継続
・ 一日の活動内容の中に、教科学習の時間を増やす。	追加
・ 教科担当と連携を図り、学習内容や方法を工夫する。	追加

【提供する合理的配慮を決定した日】

H28 年 6 月 〇日 児童生徒名 〇〇 〇〇 保護者名 〇〇 〇〇

担任名 〇〇 〇〇 学校長名 〇〇 〇〇

次回の検討予定日 H28 年 12 月 〇日

平成28年度 個別の指導計画 (実態把握シート)

記入者名： ○○ ○○ 記入日：平成28年 6月 ○日

(ふりがな) 氏名	○○ ○○	性別	○	校長名	○○ ○○
		学級	○○学級 (1年 ○組)	担任名	○○ ○○
生育歴：医療機関等からの情報(診断等)を含む ・自閉スペクトラム症		家族構成 家庭環境 など	○○ ○○ ○○ ○○		
諸検査の結果	・WISC-IV 全検査IQ○○ (平均の上の域) 言語理解○○ 知覚推理○○ ワーキングメモリー○○ 処理速度○○				
支援が必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しがもてるようにする。 ・言葉での指示が多いと聞いていないことがあり、混乱する。 ・その日の調子が悪いと、よくしゃべる。 ・気になることや不安が多いと混乱し、動けなくなる。 				
	生徒の状況			現在の対応	
各教科等 授業 宿題 他	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初は交流学級の授業へ参加できていたが、最近では登校時間が遅かったり欠席したりすることが増え、交流学級での学習はできていない。 ・当該学年の内容が理解できる。授業を受けてなくても、得意な教科は、テストである程度の点数を取ることができる。 ・文字を丁寧に書くことが苦手である。 			<ul style="list-style-type: none"> ・本人用の一日の活動内容を示したスケジュールを作成し、5教科を中心にプリント学習や問題集を使って学習をする。 ・家庭でも学習時間を設ける。 ・テストはできる範囲で取り組む。 ・板書を書き写す量に配慮する。 	
集団参加 社会性 休み時間 給食時間 集団活動 他	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級での授業に参加できていた頃は、通常の学級での活動も頑張り、給食当番の仕事もできた。 ・交流学級での授業で、しゃべっている人や落ち着かない人がいると集中できずにいる。 ・集会等は、目的と終了予定時間を伝えると、交流学級の列に入って参加ができる。 ・ざわざわしてうるさい環境の中が苦手で、体育大会の室内での応援練習では参加が難しかった。 ・昼休みは、特別支援学級での小集団の中で友だちとの会話を楽しむことができる。その反面、学校でホッとする時間が取れず、それが疲れにつながることもある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・しばらくは、特別支援学級での生活を主にする。 ・クールダウンのスペース利用を促したり、小部屋を用意したりする。 ・行事の前に、前回の様子を写真や動画で知らせる。 	
対人関係 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・人の目を気にし、自分がやっている行動に対して、何か言われるのではないかと考えているところもある。 ・交流学級では、自分から周りの友達に話しかけることはない。 ・自分の言いたいことが伝わらなかったり、相手の意向を正しく解釈していなかったりなど、やり取りがうまくいかないと混乱し、動けなくなる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・不安に思っていることを聞き、対処の方法を伝える。 ・自立活動の時間などに、自分の気持ちや伝えたいことの練習をする。 ・パニックになった時は静かに見守り、落ち着いてから本人と話す。 	
興味・関心 のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・紙工作をする。 ・なぞなぞ、だじゃれなどの言葉あそび。 ・料理をつくること。 	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・うるさい環境が苦手である。 ・素早く決定することが苦手である。 ・急な変更が苦手である。 		
本人の 願い	<ul style="list-style-type: none"> ・一日のうち、特別支援学級の活動と交流学級の活動を半々くらいにしたい。 			保護者の 願い	<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも集団活動をしてほしい。
支援にあたる者 (支援チーム)	特別支援学級担任、交流学級担任				